

講座名（専門科目名）	精神医学	教授氏名	池田 学
学生への指導方針	学生の希望を重視し、下記のグループに入って頂き、指導教官が責任を持って指導します。		
学生に対する要望	基礎・臨床研究を徹底して学び、良き指導者となれるよう努力して頂きたいです。		
問合せ先	(Tel)06-6879-3051 (Email) tagami@psy.med.osaka-u.ac.jp	担当者	田上 真次
その他出願にあたっての注意事項等			

精神医学教室は認知症や精神疾患の解明と治療法の開発を目指す多角的研究を行っております。以下の4つのサブグループと【生物学的精神医学研究室】、【精神病理・精神療法研究室】から成り立っており、各グループ間で相互にデータベースの共有や活発な討論を行っています。

【神経心理研究室】では、精神機能の脳内メカニズムの解明、および神経心理学的知識の臨床応用を目的に研究活動を行っています。神経心理学とは、人の認知、行動、感情、思考、さらには自我意識や社会性などといった人の心の働きと脳の関連を調べる学問です。研究対象としている疾患は、精神科に関連した疾患のみならず、脳神経外科や救命救急から紹介される、高次脳機能障害も含まれます。また、健常者を対象とした研究や、情報通信技術（information and communication technology: ICT）を用いた認知症の研究、認知症患者さんの診療の地域連携に関する研究も行っております。脳自体を調べるには、頭部 MRI や脳血流 SPECT といった、画像検査を主に用いておりますが、今日の画像解析技術の進歩により、より細かい特徴を捉えることが出来る様になっております。また、当研究科の他の研究室と連携した研究も行っております。

【神経化学教室】では、認知症の診断治療法開発の突破口となる研究をすすめています。分子レベルの病態解明という基礎研究を行いながら、臨床家の視点で臨床応用への橋渡しを行います。具体的には、前頭側頭型認知症の分子病態解明、アルツハイマー病の根治的治療法の開発の有カターゲットであるガンマーセクレターゼの機能解析とアルツハイマー病発症前診断マーカー開発、アルツハイマー病の A β 脳内蓄積の制御機構研究、アルツハイマー病のタウ蛋白研究などを進めております。これまで大学院を卒業した方のうちの多くが、海外（米国、ドイツ、スウェーデン、イギリスなど）の研究機関へ留学や研究就職をしています。

【認知行動生理学研究室】では、脳波、脳磁図、磁気刺激、経頭蓋電気刺激など神経生理学的な手法を用いた研究活動を行っています。臨床的にも脳波が重要な意義を持つ認知症性疾患、てんかんを初め、統合失調症、うつ病など主要な精神疾患も対象として、脳波・脳磁図を定量数値解析し、病態解明、鑑別診断や治療効果の予測・判定に応用する研究を行っています。磁気刺激による治療や脳機能評価、経頭蓋電気刺激の認知機能への効果などの試験的な試みも行っています。」

【睡眠研究室】睡眠の問題はそれ自体が改善・治療の対象になるとともに、統合失調症、気分障害、認知症、発達障害など、様々な精神疾患あるいは身体疾患の病態と密接に関与しています。私たちはこのように幅広い領域に関連する睡眠の問題について診療・研究を進めています。診療においては、睡眠の特殊な病気であるレム睡眠行動異常症のような睡眠時随伴症、ナルコレプシーのような中枢性過眠症、レストレス・レッグズ症候群のような睡眠関連運動障害、睡眠時無呼吸症候群など、様々な睡眠関連疾患を診療する専門外来を行っています。睡眠関連疾患を包括的に診療できる専門医は本邦では非常に少ない状況です。大学院在籍中には精神科睡眠専門外来を指導医とともに担当し、臨床研究データの収集とともに睡眠医療認定医の取得を目指し、睡眠専門医療を担える人材育成を行っています。研究はこのような専門外来の診療データを用いた臨床研究を主としており、睡眠関連疾患の病態解明、診断技術の向上、治療アドヒアランス改善などの臨床研究に取り組んでいます。他の研究チームや講座、関連病院の睡眠医療センターと連携しながら進めるプロジェクトが多いです。一方、睡眠に関わる問題は睡眠関連疾患だけではなく、睡眠時間や睡眠覚醒リズムなど生活習慣自体の問題も重要な健康管理上の課題となっています。このような睡眠社会学といわれる領域についても、大阪大学キャンパスライフ健康支援センターでの診療や健康診断データを用いて研究に取り組んでいます。